

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：令和2年11月1日 報告者：原 祐樹

行事種別	研究会	行事番号	200003331
開催日	令和2年10月3日(土)~10月16日(金)		
時間	開始	—	終了
場所	Web 配信 (Web 録画)		
テーマ	<p>ここまで分かった新型コロナウイルス -感染拡大に備えて私たちが知っておくべきこと-</p>		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点 (e-learning に回答した愛知県会員にのみ付与)		
司会	Web 録画配信のため司会は設定せず		
講師	<p>講演 1 : 新型コロナウイルス検査の現状 -研究班班員施設のアンケート結果分析- 名古屋掖済会病院 市川 佳保里</p> <p>講演 2 : 新型コロナウイルスの検査について -今、知っておきたい SARS-CoV-2 検査の要点- 愛知医科大学病院 坂梨 大輔</p> <p>講演 3 : 新型コロナウイルス院内アウトブレイクから学ぶ -院内発生から LAMP 法導入までの道のり- 碧南市民病院 太田 晃成</p> <p>講演 4 : 新型コロナウイルス院内アウトブレイクから学ぶ -PCR を活用したアウトブレイク対応- 名古屋第二赤十字病院 原 祐樹</p>		
内容	<p>新型コロナウイルス感染症の検査に特化した企画で勉強会を実施した。講演 1 では研究班班員が勤務する施設にアンケートを行い、新型コロナウイルスの検査体制の現状について情報共有を実施した。講演 2 では、新型コロナウイルスの検査について PCR を中心に取り上げた。検査法だけでなく、検査に供する材料や結果の解釈といった検査前プロセス、検査後プロセスについても情報提供を行った。講演 3、4 ではアウトブレイクを実際に経験した病院から、アウトブレイクへの対処、アウトブレイクから学んだことを話して頂いた。非常に多くの施設から参加申し込みがあり、関心の高さを実感するとともに、有益な情報を広く提供できたと考えられた。</p>		
参加者	WEB 開催		
共催、後援など	特になし		

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：遺伝子染色体検査研究班 提出日：令和2年12月20日 報告者：岩田 英紘

行事種別	研究会	行事番号	200003768	
開催日	令和2年11月21日(土)~12月4日(金)			
時間	開始	—	終了	—
場所	Web配信(Web録画)			
テーマ	新型コロナウイルス遺伝子検査を知る -PCRに携わるスタッフが知っておきたいこと-			
生涯教育履修点数	専門教科20点(e-learningに回答した愛知県会員にのみ付与)			
司会	Web録画配信のため司会は設定せず			
講師	<p>講演1：PCR検査で知っておきたい基礎知識 -原理を知ればPCRがもっと理解できる- 中部大学 祖父江 沙矢加</p> <p>講演2：PCR検査における精度管理 -品質保証は日々の精度管理から- 名古屋大学医学部附属病院 渡邊 かなえ</p> <p>講演3：実技動画で学ぶ遺伝子検査の基本手技 -正しい結果は正しい基本手技から- 愛知医科大学病院 坂梨 大輔</p> <p>講演4：新型コロナウイルス遺伝子検査総覧 -数多ある選択肢からどのように選ぶか- 豊橋市民病院 山本 優</p>			
内容	<p>講演1では、PCRの基本となる増幅原理を中心に解説していただいた。また、臨床現場で応用されるRT(Reverse Transcription)-PCRやReal-Time PCR、LAMPなどの使用目的や検出・解析方法についても解説された。最後に、新型コロナウイルス検出に用いる市販キットを例として提示し、キットによってターゲットとする遺伝子領域が異なり、検査結果が変わる可能性についても触れていただき、ターゲット領域を知っておく必要性が理解できた。PCR原理を正しく理解することにより、他検体や陽性コントロールからのコンタミや反応阻害物質による検査結果への影響が理解できる内容であった。視聴者からは、RT-PCRとReal-Time PCRの語句の違いについての質問があり、よく混同される用語について再確認する機会となった。</p> <p>講演2では、遺伝子検査の精度管理を中心に解説していただいた。医療法改正からみる遺伝子検査における精度管理の重要性やコントロールの種類、コントロールの使用例が解説された。特に、新型コロナウイルス検出の遺伝子検査を開始するにあたっ</p>			

	<p>て、演者の施設での精度管理物質や手順の検討内容を詳細に提示していただき、コントロールによる結果解釈の注意点が良く理解できる内容であった。視聴者からは、精度管理用コントロールについての質問があり、普段遺伝子検査に携わっていない参加者にとっても、コントロール分類の内容を知る機会となった。</p> <p>講演 3 では、遺伝子検査の基本手技について動画を交えて解説していただいた。交差汚染などを防ぐためにも、遺伝子検査においてピペット操作は非常に重要であり、注意すべき点が少なくない。そういった点も含めて動画では解説がされており、非常に勉強になる内容であった。</p> <p>最後の講演 4 では、新型コロナウイルス感染症診断に使用できる試薬や機器の選定における考え方を解説していただいた。現在、非常に多くの機器や試薬が販売されており、どの試薬や機器を使えばよいかを迷っているという声もある。そこで、本講演では各機器や試薬の特徴を概説しながら、選定をする際の考え方を紹介いただいたことで、機器や試薬ごとの特徴を把握することができた。</p>
参加者	総数：123 名（会員 123 名）
共催、後援など	特になし

2017.7.6

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：令和3年3月5日 報告者：原 祐樹

行事種別	研究会	行事番号	200005300	
開催日	令和3年2月6日(土)~2月19日(金)			
時間	開始	—	終了	—
場所	Web配信(Web録画)			
テーマ	微生物検査における精度管理 -おさえておきたい報告のポイント-			
生涯教育履修点数	基礎教科 20点 (e-learning に回答した愛知県会員にのみ付与)			
司会	Web録画配信のため司会は設定せず			
講師	<p>講演1：2020年度愛臨技精度管理報告 JA愛知厚生連江南厚生病院 河内 誠</p> <p>講演2：これ、本当に報告していいの？染色・同定編 公立陶生病院 廣瀬 明宏</p> <p>講演3：これ、本当に報告していいの？感受性編 JA愛知厚生連豊田厚生病院 永田 悠起</p> <p>講演4：ICT/AST活動の精度管理 -微生物検査技師が果たすべき役割- 刈谷豊田総合病院 藏前 仁</p>			
内容	<p>講演1では、本年度の愛臨技精度管理調査について、詳細な解説がされた。本年度はコロナ禍の影響で大幅に設問構成を変更することとなったため、本講演での解説は例年以上に重要と思われた。</p> <p>講演2・3では、検査の実施・結果の報告の精度向上のため、班員アンケートを元に解説を行った。臨床検査技師が臨床に貢献するためには、これまで以上に報告の精度管理・精度向上を図る必要がある。具体的な事例を提示することで、聴講者の施設で何が改善できるのかを考えて頂けるような講演であった。</p> <p>講演4では、次のステップとして、ICT/ASTなど検査室外で臨床検査技師が果たすべき役割について、実例を交えて解説頂いた。</p>			
参加者	総数：88名(会員88名)			
共催、後援など	特になし			